

データテック、第24回お客様 交流会を産業プラザPioで開催

㈱データテックは2月14日、大田区産業プラザPioコンベンションホールにて、第24回のお客様交流会を開催した。第一部は同社の田野通保代表取締役の開催の言葉に続いて、サカイ引越センター常務取締役の山野幹夫氏が登壇、「更なる安全品質の向上を目指して」のテーマで講演。

同社はインパクトのあるCM展開などで業績を伸ばしてきた黎明期は、とにかく増える需要にしたがって長



山野幹夫常務取締役

距離を厭わないドライバを重用する傾向があったが、作業件数が増えるにしたがって事故も増える傾向を改善するため、2004年に本社研修センターを設置し、従来のOJT体制からの脱却を目指し、2005年にデータテックのSR（セイフティレコーダ）を自社用にカスタマイズして同社の全車両に導入した。

取り組みはシンプルで、5項目の点数評価と最高速度、連続走行管理のみ。それでも、運転手がどういう運転しているのかを管理し、点数評価を取り入れ、社内に周知する体制

とすることで、全社の平均点は向上。さらに点数評価と無事故の条件を満たしたものに愛車手当のインセンティブを導入するなどの取り組みで、事故率が半減した。一層の車両事故削減へ向けて2012年からはドラレコを導入、車間距離への警告音や追突の注意喚起などの効果で事故率がさらに半減し、取り組み以前の1/4を達成した。2015年から新型SRコネクトを順次導入しており、今後は危険挙動のハザードマップとしての利用なども将来の展開として検討している、と述べた。

続いて越野運送㈱代表取締役の越野泰弘氏が登壇し「安全・安心・信頼のブランドを築く」のテーマで講演。社長になった



越野泰弘代表取締役

当時は3Kと言われた職場で社員がどんどん辞めていく時代。トラブルが発生するたびに、なんとか毎日気持ちよく働ける会社になりたいと痛感し、まずは事故をなくすことを目標にデータテックのSRポケットを導入。以降この十年間、事故数は大幅に減り、ほぼゼロに近づいた。

心構えとしては70点主義。点数で完璧を目指す、黄色信号でスムーズ化のためにノーブレーキで入るなど本末転倒な事態になりかねない。今は3カメラシステムを導入して、後退事故の撲滅に取り組んでいる。

こうした取り組みの中で平成22年度にはグリーン物流優良事業者表彰もいただいた。今後とも、会社の規模を競うのではなく、永続的に活躍できる会社でありたい、とスピーチ。

続く第二部では、各テーマごとにグループ分けした分科会での意見交換、さらに懇親会が催された。